

ふるさと奥尻通信

令和6年3月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

青苗遺跡の発掘調査は戦後本格化し、昭和24年の江差高校、同25年の札幌西高校、同27年の東京大学、同29年の市立函館博物館、同31年の早稲田大学と連続しました。

特集 福島大学による青苗遺跡試掘調査概要

青苗遺跡「山本台地 懸崖地点」における遺構・遺物の分布状況・性格・年代等を確認するため試掘調査を行いました。試掘トレンチは、南北約20m×東西約10mの大きさで、1977年に検出された、ヒスイ製大型丁字頭勾玉副葬墳墓のすぐ西側に位置し、同様の墳墓の存在が期待されました。

掘削は、表土および近現代の層は重機で除去し、近世以後の層を手掘りで行い、掘り上げた土壌に対するウォーターフローテーション調査を実施し、炭化種実等の検出・分析から同遺跡で行われた生業活動の復元を目指しています。

調査地では、全10層の土層を確認しました。第1層～第4層は近現代の整地土等で、現代のごみ穴や池跡等もあり、近世以前の文化層は良好には残っていませんでした。トレンチの東側部分では、地表下約50cmに1640年噴火の駒ヶ岳火山灰(Ko-d)とみられる第5層が約10cmの厚さで堆積し、その直下に擦文文化期に相当する第6層が厚さ10cm前後で堆積していました。第7層からは縄文時代前期と思われる土器(円筒土器か)が出土し、第10層は遺物が出土しない地山層(基盤層)でした。

調査地点の基本層序

1層	近現代
2層	近現代
3層	近現代
4層	近現代
5層	駒ヶ岳火山灰(Ko-d)層
6層	擦文文化期の土器が出土
7層	縄文時代前期の土器が出土
8層	遺物の出ない層
9層	遺物の出ない層
10層	地山層



土層の断面(中央の黄色が駒ヶ岳火山灰)



今回出土の土器(10～11世紀)



1980年の調査で出土した土器

期待していたものの、明確な擦文文化期の遺構は検出されませんでした。調査区の西10～20m付近では1980年の発掘調査によって比較的多くの遺構・遺物が検出されていますが、今回の調査区付近では、近現代に擦文文化期の層が大きく破壊されたことが、遺構が確認されなかった理由の一つと考えられます。したがって、今調査区内における擦文文化期の遺物出土量は少なく、その出土も散発的でした。一方、擦文文化期の層が比較的良好に残るトレンチ東壁では、壁面に複数の擦文土器が顔をのぞかせており、調査終了時にそれらを回収したところ、比較的多数の土器片が得られました。これらは接合作業の結果、ほぼ全体が復元される甕2点(年代観:10世紀前葉～11世紀中葉、松前町札前遺跡で多く出ている札前4類)となり、この付近では擦文土器を含む文化層が良好に残っていることが推定されました。このことは、来年度に計画している次回調査にあたり、大きな目標となるものです。

今回の試掘調査では、1970～80年代に行われた発掘調査の結果を検証するとともに、層序、擦文期文化層の厚さ、その年代、遺構・遺物の広がり等を明確に把握し、記録に残すことができました。調査区西側では、近現代の開発により遺構・遺物がほとんど残っていないことを確認した一方、調査区東側では、擦文文化期を含む層が良好に残存していることが推定されます。調査を行っていない北側も、近現代の建物等が存在したとの記録がないことから、文化層が残存している可能性があります。

来年度は、残存している可能性のある箇所を中心に本格的な発掘調査に臨むこととなります。



土層を観察して作図している様子



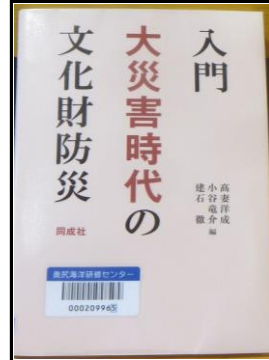
調査区全景 北西方向から



調査区全景 南方向から



1977年(昭和52年)に青苗遺跡を発掘している時の様子です。墓所のあ
る台地(通称:貝塚台地)から道路を挟んだ向かい側の台地(通称:山本
台地)を写しています。空港に続く道路の改良前の青苗地区で、津波災害
前の町並みを見ることができます。海岸部の町は道路をはさんで「上町」
と「下町」別れていましたが、かなり密集して建っていた様子が判ります。
道路下に見える、手前左側に見える大きな屋根が萬徳寺、中央部に見え
る大きな屋根が耕養寺です。高台の台地は、すでに緑が丘団地として分
譲済みでしたが、建物はまだ多くありませんでした。



学芸員オス
スメの一冊を
ご紹介しま
す。本は海洋
研修センター
図書室で借り
られます。

入門 大災害時代の文化財防災
高妻洋成・小谷竜介・建石 徹

災害は必ず起きる。人の命とともに
文化財をも守らねばならない状況に
直面する。両立は難しく、規模の大
小、地域性にも大きく左右される。東
日本大震災後の東北での文化財レ
スキューの事例や、震災前後の地域
の祭礼と暮らし、移転事業に伴う遺
跡調査による研究成果の進展など多
岐にわたるテーマで災害と文化財に
ついて述べる。関係法規も掲載。

奥尻のつり 2024年新春号

年が明けまして、1月は時化る日もありましたが、2月ま
で比較的暖かい日が続いていました。北海道地方の降雪
量は、後志や道央日本海側で局所的に多くなっていますが、全道的には少なく、道南渡島、檜山地方は特に少な
いようにみえます。2月中の暖気もあって、雪解け水が海
に流れ込んで海水温は下がったことと思います。例年ど
おり、浜ではノリ採りが行われ、日数が少なかったもの
の、冬の島の風物詩がみられました。魚と言えば、サクラ
マスの便りがようやく聞こえ始めまして、東海岸の好ポ
イントを押さえたベテラン勢からは明るい話題が聞こえてき
ました。沖ではタラ釣り、沿岸ではゴッコ捕りの磯舟が行き
来していました。その他、エビかご漁も行われており、シマ
エビやボタンエビなどが捕れています。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第6回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号

らいぎ行のて食す豆七豆と屋は小側を仕
大とたっついで草を歳をすに、屋に揚事十
し、いたてるての先にふ草行馬のつけを五
た馬、ガとい混んたてをっ掃ん、し日
溜小、へヤ、るじ食るて良て屋除②た、
っ屋と俺く五、っ、やく、の、あ水。午
ての、も話六草たて永る混馬掃一るを起前高
い中思スを人の草しら、ぜに除番薪汲き中一
たのいキシ、こをまく家て草だ長をむて、
つ馬乍一乍スぼ、っのの、や。く入、か予道
づ糞らのらキ所ごて習馬其や裏かる③ら定下
く糞ら、り通しをりか慣はのるの、外、の久
見ひにっ掃くらで、上、馬る④の①朝一
たよ行てい、、十に葉小の馬家床の

上
氣
の
風
邪
を
ひ
い
た

かボまの会中す始部シえス
っし行が、るしオーるキ雪
たツた事中スこ、ーズこーの少
とのがが止キとニプンとはが運
思場、出にーが月ンはが運
いがウ来な教で十し一で営
ますンいなやま日シ三まどし
。れタ年どスしまー十しうた
てーと、キたでズ日たにか
良スな多ー。営ンにか
りく大途業開一今終、

ス
キ
ー
場
も
営
業
終
了



研修の様子

るな対な講くさ世程経られ職目
こつ応つ師りれ代度験三ま員を東
とのたををたへまし十し対迎日
がも難震担担ものでた年た象え本
強職し災当当の継減職が。のた大
調員さ時ししで承少員経奥防三震
さが、の、たすをしは過尻災月災
れ頼被様大職。目てすしの研十ら
まり災子混員当的おで、大修一
たと者や乱O時にりに当震が日
たさと町とB街実、二時災行、三
れ民がづ施次割をかわ町年

職
員
防
災
研
修
実
施

が防訓対ま憶にも月目し改
で災としての追あ日がま元令
き意してが奥わりがあうし和
る識てはち底れま経りのて五
との止時でに、す。つまでも年
思低め々すお昔。たすすう度
い下て思。いの日とがね。五
まをおい自や出々い。年終
す。防く出然ら来のうそ何も了
。ぐこし災れ事暮これ事経で
こと、害てはらとだもつす。
とで教にし記しでけ節

新
水
之
記
録
(編
集
後
記)

れでか出りはずずーと種ーい
てす食回まつん。イで類ガる
い。べらすきぐ見バはがサエ
ま。上るな。りりたラあいエ
す。ノこい市しし目モりまビの
。国との場たてはエます。中
町がでにトイ、ビせ。とに、
で、はゲて体。んシ呼、
もき地ほト、型と。ヤん地
捕な元とゲ頭がい和コで元
獲いでんがにやい名のいで
さ物しどあやまはこるて

貴
重
な
エ
ビ
の
は
な
し



勝間山の黒曜石(真珠岩)大露頭